

# 大阪の坂道研究

改訂版

2017年3月25日発表

大阪歴史博物館講堂

研究発表別添 参考資料

大阪府立大学 21世紀科学研究機構

大阪検定客員研究員

辻本伊織

そこにある『自然景観』を低予算で『観光資源』化  
無名坂に名前をつけよう  
坂道三点セットを設置しよう

## 研究の経緯

序章・・・・・・・・研究動機・定義・研究方法など	2014年度発表
第1章・・・・・・・・アベノの坂道10選	2014年度発表
スピンオフ・・・・・・・・生國魂神社に文学と芸能のプロムナードを	2015年度発表
第2章・・・・・・・・人名坂の創造	2016年度発表
第3章・・・・・・・・失われた坂を求めて	2017年度発表
第4章・・・・・・・・天王寺七坂の謎をさぐる（仮題）	2018年度予定

今回の発表は第3章 **失われた坂を求めて** である。序章はすでに発表している。この序章では坂道とは何か？なぜ無名坂に名前をつけるのか？などという重要な基本事項を述べている。これは研究の導入部であり、これを省くと全体の見通しが悪くなるのであるが、時間や枚数の制限もあって、今回の発表スピーチやレジュメでは触れる余裕がない。そのため、重複ではあるがこの小冊子に収録して、全体の背景なり、指向性をご理解いただくためにもぜひとも一読をお願いする次第である。

## **【研究の動機】**

大阪市は水の都と形容されることが多いが、太古の昔はともあれ、現在ではその水が表象するものとあまり縁のないエリアもまた大阪市内に存在する。例えば中央区南部・天王寺区・阿倍野区・住吉区北部がそれである。「要するに上町台地だよ」と言った方が話は早いかもしれない。

これらのエリアでは水が表象するもの、例えば海・川との接点がない。よって舟運も川をまたぐ橋もない。若干の池はありそれにかかる小橋はある。それでは顕著な自然景観は何かと問われれば、坂であると答える以外ない。そしてその坂に関わる現実がいささかお寒い状況であり、なぜ【いまそこにある自然景観】を利用活性化しないのかという当然な疑問もでてくるわけである。

大阪（大坂）という大きく坂に関係した都市名を持っている大阪市における坂の現状はどうなのだろう。さぞかし愛でられているかと思えば、さにあらず。自然景観として放置されているとは思いたくないが、それに近い状態ではなからうか。

【いまそこにある自然景観】を【いまそこにある観光資源】へと活性化利用、成功しているのは天王寺区の**天王寺七坂**くらいである。

大阪の坂道は他都市（東京・京都・神戸など）と比べても観光資源として認識されていない。ましてや東京における偏愛ぶりなどとは雲泥の差がある。その何よりの証拠は 無名坂が多すぎることを見れば充分事足りるだろう。

私の研究提案を通底して、**無名坂に名前をつける（あるいは取り戻す）** ことによって【そこにある自然景観】を【そこにある観光資源】に低予算で活性化止揚しようという考えが流れている。各章ごとに、そういう坂の置かれている状況に様々な方向・方法でアプローチをしてみようと思う。昨今の経済的状況下では単に愛でることで 満足してはちょっと困るのである。

## **【坂道とは何か？】**

まずはここからはじめたい。私のアプローチは河岸段丘だの断層だのと言った地学的・地形学的関心よりも、むしろ歴史的様相や文学的様相を中心とした人間との関係性を重視したところにある。

### **坂道の定義**

坂は道がついて成立する。よってこの研究・提案では<坂道>を主とした用語とする。

- ①坂道はあくまで道としての機能を持っていることが重要である
- ②傾斜した道であることが条件である
- ③単なる山や丘の斜面は除外する
- ④普通に人が上がり下がりできない崖状などは除外する
- ⑤形状としては階段状も含む

### **私が研究対象とする坂道の<選定基準>**

- ①景観・見晴らしのよいもの。
- ②形状に特色のあるもの
- ③特定できる建物・樹木などがあるもの。(寺社・屋敷・巨木・石仏・祠など)
- ④坂道自体に、あるいはそのあたりに由緒・伝承などがあるもの
- ⑤急坂を上とする

※ 明治時代の源聖寺坂にあった好晴館・清柳楼（いずれも料亭）など類するものあれば優先する。  
茶店でもいい（笠森 お仙のような娘がいれば繁盛するだろう。でも爺さんでもかまわない）。

**提案型研究対象の坂道**としては次の3つに絞ることとする。

- ①**無名坂**（名前があった痕跡がどこにもない）
- ②**忘名坂**（以前名前があったことは判明できるが今は忘れ去られている）
- ③**無表示坂**（名前は知られているが表示するものがない坂）

②に関しては今回の**第3章の研究**によって単に**忘名坂**としてはくれない坂があることが判明した。それを**変化坂**と呼ぶか、**変身坂**と呼ぶか、**改名坂**と呼ぶか迷っている次第である。

③に関しては、古文書・古地図の記載もなく、現在も同様記載がなく、もちろん現地に坂道三点セットや名前を表示するものがない。いわば人の伝承（いつたえ）や俗称しかないものを指す。（現代的には非公式・非公認なネットでの記載・呼称も含める）

具体的には**久保田の坂・靱の坂**などがそうである。**聖天坂**もどちらかといえばこの範疇か。

※私がフィールドワークで踏査した坂道は300例ほどであるが、現在のところほとんどが上町台地縁辺に位置するものである。そして、圧倒的に無名坂が多い。これほどの特徴のある坂になぜ名前がないのか、と幾たびも疑問に思い残念を感じたものである。

## 【坂道三点セット】

スピーチでは常時触れてはいるのだが、設置を提案とするからにははっきりと定義をしたいと考え、今回の『報告書』レジュメには記載した。ここでは現物をあげて補足しておきたい。



天神坂 左は標石



右は説明（由緒）板

いつも**口縄坂**ばかり模範例に採用しているので、今回は**天神坂**をとりあげてみる。

三点セットの①はもちろん坂自体である。これがなければはじまらない。天神坂は石畳であるし、清水の復原などもある。これでこの坂のアイデンティティは保たれる。

考えていただきたい。坂を人工的に造ろうと思えば、工費はどれくらいかかるだろうか？

例えば、**真言坂**や**学園坂**は切り通しでできた新道である。現在同じようなことをやれば大工事である。場所によれば大変な額になることはまちがいない。これに比べれば、三点セットの②や③はお安いものではなかろうか？ウン十万円もあれば良い石材を使うことも可能だ。

しかし、空堀にある**観音坂**のように標石だけで説明板がなければ、これは画竜点睛を欠くことになる。よしんば標石がなくとも説明板のほうが必須である。この点は風情よりも効果を私は選びたいと思う。

## 【坂道の名称由来】

これは無名坂を試みに名づける際に、古今・各地の坂道名称を調べて参考にしたのだが、東京と比べて圧倒的にジャンルが狭い。名称を持った坂（有名坂）自体が少ないから当然のことだし、私が無名坂に名前をつけてまわろうと思いついたのもそれゆえのことだ。ないものねだりかもしれないが『旅行百話』に出てきた坂名が事実であってくれたらどれほどか変化に富んだ分類ができることだろうか、といまだに未練がましく思っている次第である。（下記分類は、未完成・不完全・進行中）

### ① 形状や位置によるもの

口縄坂・雁木坂・大坂・中坂・九段坂・九折坂

### ② 寺社・屋敷などの構造物が近くにあるもの

天神坂・清水坂・愛染坂・源聖寺坂・真言坂・心眼寺坂・病院坂・墓坂

### ③ 自然物（池・川・樹木・石など）が近くにあるもの

さくら坂・榎坂・松坂・銀杏坂

### ④ まわりの状況・方角

暗闇坂・芥坂（またはゴミ坂）・幽霊坂・富士見坂・汐見坂・北坂・西坂

### ⑤ 人名によるもの（別名・職名・あだな・店名なども含む）

久保田の坂・鞆の坂・ハンター坂・牧野阪・法円坂・ほくちや坂・どんどろ坂・乃木坂  
安国寺坂（寺分類ではない）・太夫殿坂

### ⑥ 伝承・伝説によるもの

産寧坂（三年坂）

### ⑦ 地名によるもの

北野坂・名呉坂

### ⑧ 洒落・言葉遊びによるもの

浄瑠璃坂（三段や五段の段々坂であり 浄瑠璃の段になぞらえた坂）

切支丹坂（転ぶところからついたというのが真偽不明）

真坂

※さて上記の坂名で大阪にある（あった）坂はどれでしょう？

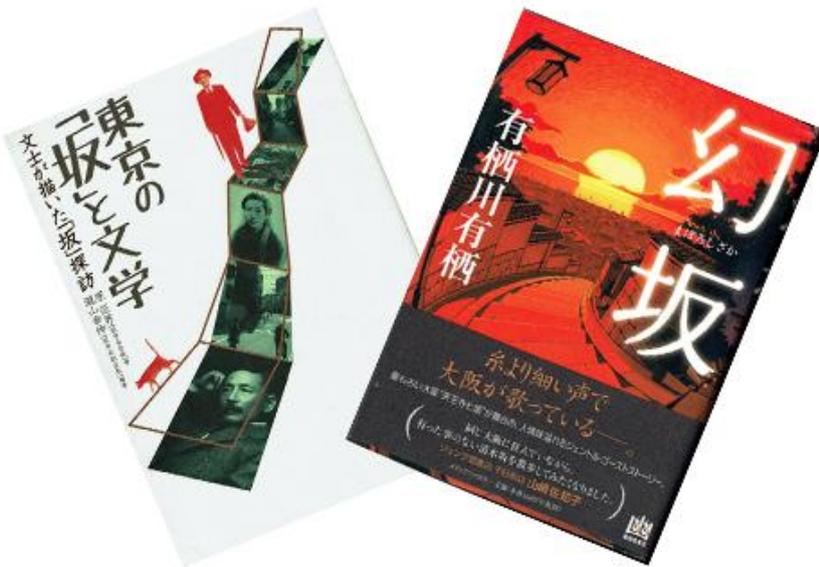
## 【無名坂に名前をつけることの意義と効果】

名前がなくてはただの傾斜した道にすぎない。

こういった営為は坂に限った話ではないが、名前をつけること・名前があることによって

- 親しみが湧く
- 印象が強くなる
- 覚えやすい・記憶に残る
- 道の説明に役立つなど便利になる
- 地図・文献・ブログに引用される
- 観光資源・民俗資源として利用される
- 何よりも後世に伝承される

などなど、といった効果が望まれるのである。



相乗効果の特例として、文学者によって作品化されるものがある。

2013年に有栖川有栖によって上梓された、天王寺七坂をタイトルとした7作に2作を加えたオムニバス幻想怪談『幻坂』がそれである。

ここまでくれば、記号としての坂が大阪の風景に渾然一体となって溶け込み、われわれの記憶・心象を

形づくるよすがとなってくれる。

私が天王寺七坂を成功事例として一番にあげているのはこういう効果を生み出すことを期待してのことである。それでは東京ではどうか。2014年に発行された『東京の坂と文学』彩流社を繙けば、『幻坂』のように実在の坂道を舞台とした文学作品満載なのである。漱石・荷風などの作品には当然のごとく坂道が登場してくる。それもこれも**坂道にちゃんとした名前があつての話**である。

## **【坂道状況・・・他の大都市との比較】**

---

大阪だけ見ていてはバランスの取れた評価は難しい。そこで、日本の各都市における坂道状況を少し見てみよう。大阪に適合する範を求めるためにも【函館】・【尾道】・【長崎】などという全国に知られた坂の町はさておき、ここでは大阪に類した大都市の坂道を考察することとする。

【京都】は衆知のごとく観光化にまことに貪欲なところであり、坂道は多いとは言えないものの名所近くのちょっとした坂道には名前がつけられ、標石・説明板も完備している。貪欲な観光化の例としては、東山の産寧坂、二年坂は観光名所であったがいつのまにかその延長線に一年坂と称する坂が昔からあったがごとく成立していることなどで明らかだろう。三年坂・二年坂・一年坂の流れは坂道名称分類では【ノリ】のカテゴリーが必要となるかも。

【神戸】は海と山が迫った地形に占める町の構造から、当然のように坂だらけの町である。よって無名坂も多いのだが、観光重点地区の坂には名を持った坂が多い。北野界限では、ラブホテルの名称になりかかった坂を市民公募で北野坂としたのをはじめとしてハンター坂・トーマス坂などいつのまにか着実に名前を有する坂が増えてきつつあるというのが実感である。

【東京】は下町の橋に対して山手の坂と言われるように、坂道が多くまたその坂道に名前がつけられている割合が大きい。独断偏見的に私見を陳べれば、東京は江戸開府以来、他国人の流入の激しい土地である。主に山の手に住むようになった武士クラスの地理に暗い連中が自分の住居だけでなく行き来に迷わぬよう、数多い坂道に名前をつけ回したとも考えられる。よって新坂・潮見坂・富士見坂・暗闇坂・芥坂など同じ名前の坂がいくつもある。大名屋敷がそばにあればほぼその名前をつけた坂がある。それが大きな地理的目印（ランドマーク）となるから当然のごとく切り絵図などにも記されていくのである。これが**坂道事典**までできてしまう原点であろう。

## 【大阪の坂道研究・・・ご案内】

過去の私の研究スピーチは大阪商工会議 Web サイトに収録されている PDF をご覧いただきたい。

序章・・・・・・・・研究動機・定義・研究方法など **2014 年度発表**

第 1 章・・・・・・・・アベノの坂道 10 選 **2014 年度発表**

[http://www.osaka-kentei.jp/pdf/2014/osk\\_houkoku2014\\_13.pdf](http://www.osaka-kentei.jp/pdf/2014/osk_houkoku2014_13.pdf)

スピンオフ・・・・・・・・生國魂神社に文学と芸能のプロムナードを **2015 年度発表**

<http://www.osaka-kentei.jp/kh2015.html>

『大阪春秋』 No. 158 13p～14P に直木三十五と菊池寛の不思議な交友関係について『人たらしと過剰な友情』というエッセイを書いておりますのでご参考までに。

第 2 章・・・・・・・・人名坂の創造 **2016 年度発表**

<http://www.osaka-kentei.jp/kh2016.html>

別添資料

[http://www.osaka-kentei.jp/pdf/2016/osk\\_houkoku2016\\_02\\_02.pdf](http://www.osaka-kentei.jp/pdf/2016/osk_houkoku2016_02_02.pdf)

## 【坂道情報 求めています】

「こんな結構な坂がおまっせ」とか「おじいちゃんから聞いたんやけど、昔はあの坂道は●●坂ってよばれてたみたいやで」とかありましたら、ぜひ下記メアドまでご一報を。第 1 章で取り上げました**鞆の坂**は教えていただいた情報から、ありがたく研究対象とさせていただきます。

大阪・江戸・京都検定 1 級

神戸学検定上級 神戸学マイスター

奈良まほろば検定 まほろばそむりえ

大阪府立大学 21 世紀科学研究機構大阪検定客員研究員

京都産業大学日本文化研究所上席客員研究員

**辻本伊織**

**wild@wolf.ne.jp**